

ISO/IEC JTC1/SC7 WG21 (IT Asset Management/IT アセットマネジメント)
国際会議出席報告書

2026年5月29日

参加者氏名：島田篤，高橋快昇

1. 開催場所：ラスベガス/米国
2. 開催期間：2026.5.7-8
3. 加国数／出席者数： 5 カ国/11 名， 2 リエゾン
会場参加者：コンビナー， 幹事 ， 米国(1)， 独 (1) ,日本（高橋）,SAMAC(島田)
リモート参加者：米国(2)， 仏(1)， 英 (2) ， 中(1)， ITAM Forum(1)



4. コンビナーレポート

1) 19770 シリーズの出版状況

ISO/IEC TS 19770-13 が新たに出版され、出版中の規格は 10 規格となっている。



図 1 出版中の規格一覧

2) 開発中のプロジェクト

- ISO/IEC 19770-1 については、8 章で説明。
- ISO/IEC 19770-5 については、Ramesh より提出されていた ISO のコメントに対応した版に否定的なコメントがなかったので、前版と同様に無料の標準として出版できるように手続きを進めることで合意した。但し、開発中に出版された、19770-10,-6 の用語には対応していない。
- ISO/IEC 19770-10 については、5 章で説明。
- ISO/IEC 19770-11 ed.2 は、現在、ISO で Casco にエスカレーションされ、ISO の担当者と Casco の間のどこかにあり、待ちの状態になっている。
- ISO/IEC 19770-X については、7 章で説明。

表 1 開発中の規格一覧

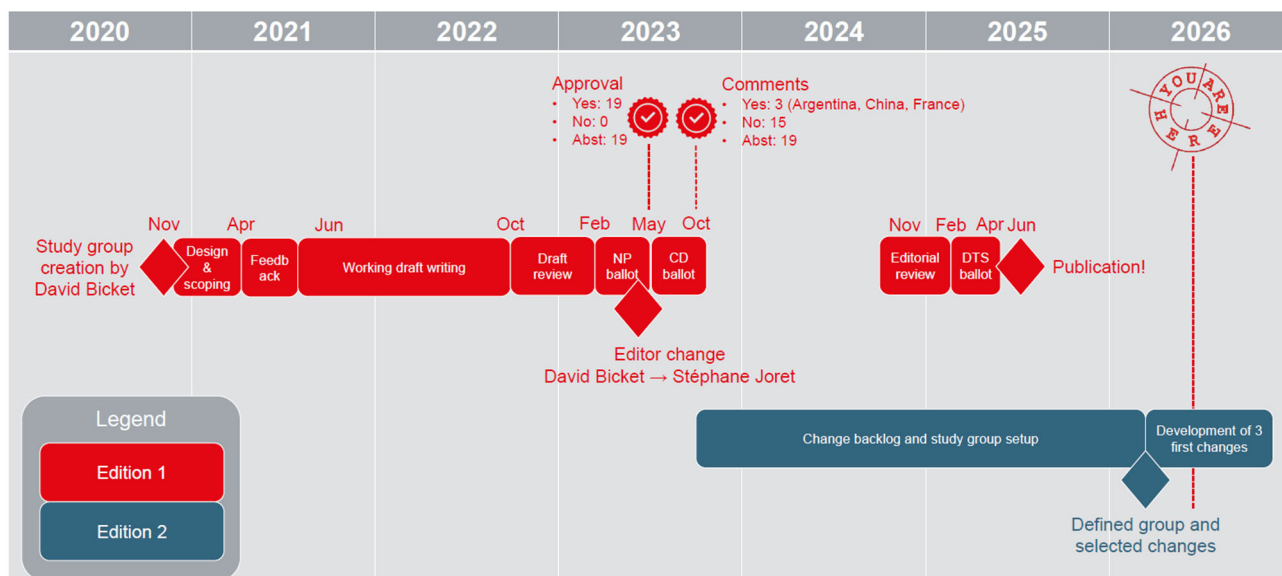
#	Type	Edition	Description
19770-1	International Standard	4	IT Asset Management System
19770-5	International Standard	3	Overview & Vocabulary
19770-10	Technical Specification	2	Guidance on ITAM Implementation
19770-11	International Standard	2	Guidance for Audit Bodies
19770-X	TBD	1	Technology Portfolio Management

3) 主要な関係組織の状況

- FinOps Foundation（Linux Foundation の下部組織）の FinOps X の発表。
- WG21 の C-Liaison として活動していた ITAM Forum は、Lisa 及び ITAM Review の機能を残し、それ以外の機能を Linux Foundation へ移行している。
- ITAM Forum 創設者の Martin Thompson は、移行に伴い Linux Foundation のエグゼクティブディレクターに就任していたが、今回正式に辞任した。
- WG21 秘書の交代：Rose-Ann Merulla → Ryan Stefani。

5. 19770-10:Ed.2

1) 進捗状況



2) バックログの状況

第1版でバックログにされた課題及び新たなテーマが、課題として全てバックログに記録されてる。現在登録されているバックログは次の通り。

「検討中」の変更

- ✓ 19770-1 第4版との整合
- ✓ 19770-5 第3版との整合
- ✓ 19770-13 第1版との整合
- ✓ AI for ITAM
- ✓ ITAM for AI
- ✓ 製品ライフサイクル管理
- ✓ デジタル主権 (Digital Sovereignty)
- ✓ SAMAC から依頼された内容調整
- ✓ インドから要請された内容調整
- ✓ ITAM の組織体制
- ✓ 実装の実務的な説明
- ✓ 内容のバランス改善
- ✓ ソリューション間の相互運用性
- ✓ データ集約役としての ITAM
- ✓ 事業部門で使用されている旧式 IT コンポーネ

ント

- ✓ OT アセットマネジメント
- ✓ 製品スコープの優先順位付け基準
- ✓ IT アセットおよび関連サービスの取得
- ✓ デジタルツイン
- ✓ クラウド関連の追加トピック
- ✓ ITAM と電子調達 (e-Procurement) の統合

「進行中」の変更

- ✓ ISO 19770-1 認証のためのガイダンス
- ✓ ISO 19770 のガイダンス
- ✓ サイバーセキュリティ要件
- ✓ ITAM ソリューションを評価するための基準

「着手待ち」の変更

「作業中」の変更

「完了」の変更

3) 開発体制

16名のボランティアで開発中。

4) その他の議論

- ITAM Forum のコラボレーションツール”basecamp”で管理されているが、ITAM Forum の Linux Foundation の移行により、変化が予想される。

- 開発には多くのボランティアが参加しており、出版状況も話題になった。19770 シリーズ全体で把握するべきで、ISO の Web ストアに問い合わせる決議が了承された。ただ、各国独自の出版状況は、日本の JIS と同様に各国のデリバリー方式があり、各国での調査が決議された。
- Linux Foundation を通じての無料配布とし、それをベースに ISO の標準にする方法も考えられるので今後、検討することになった。

6. C-Liaison 報告 : SAMAC

SAMAC の常務理事島田さんより、添付資料「ISO-IEC JTC 1-SC 7-WG 21_N2359_ISO Plenary 2026 - SAMAC Report and Interim MTG 2026 Details.pdf」で SAMAC の近況が報告された。

- SAMAC の状況
- JIS 化の状況
- ITAM World の状況
- アンケート分析
- 2026 年 Interim Meeting について（日程について 11 月 4.5 日で実施することに決定した）

7. 技術ポートフォリオ管理（TPM）

1) プロジェクトの概要

Dr. Hachenberger Jan がプロジェクトの発案者で、新しい管理システム標準（仮称：Technology Portfolio Management, TPM）を立ち上げた。現状は、まだ、SC7 で正式に認められたプロジェクトではないが、WG21 内で WD と NP 提案の準備が進められている。

- ✓ 目的：技術（IT, OT, デジタル）を企業の戦略、収益性、競争力、リスク管理の方針と整合させるための、マクロレベルの指針とガバナンスを確立すること。
- ✓ 位置づけ：既存の ISO/IEC 19770 標準やその他の標準（例：27001, ITIL/ITSM）を置き換えるのではなく、補完する役割を果たす。TPM はそれらの上位に位置し、統合的な管理フレームワークとして機能する。
- ✓ 主な対象者：CXO およびリーダーシップ層（CIO, CTO, CDO, アーキテクチャ、運用、アプリケーション、セキュリティ、PMO、調達、管理・財務の責任者）。
- ✓ 構造：
 - 経営層における指針となる「原則」と PDCA（計画・実行・確認・改善）サイクルを中心に構成され、詳細は、附属書や既存の規格の参照によって示す。
 - 長さは、コア部分で 15～20 ページを目標とし、マッピングや例を示す附属書からなる。
- ✓ 適用範囲：
 - テクノロジーには IT や OT、そしてすべての技術を活用したアセットやサービスが含まれる。ソフトウェアやライセンスに限定した狭い視点を避ける。また、名称から「IT」を外して、「IT 対ビジネス」という対立構図を避ける。

2) 決定事項

- ✓ 作業タイトル「Technology Portfolio Management」規格番号 19770-100（予備番号 19770-99）を、ISO/IEC 19770 シリーズの新しいプロジェクトとして SC7 決議を開始する。

- ✓ プロジェクトリーダーの Jan は現在の TPM ドラフトと Forrester のハイパフォーマンズ IT 関連の資料をコアチームに配布する。
- ✓ Co-Editor の Brian は共同編集者の役割を確認し、Jan と編集計画の調整を行う。
- ✓ Ron, Jan, Brian で小規模なボランティアグループを決め、毎月のワークショップの開催を設定する。
- ✓ Stefan が ITSM 及び ISO/IEC 19770-10 からの教訓について助言する。
- ✓ Rob が TPM と FinOps の整合及びトップレベルのフレームワークについて意見を提供する。
- ✓ チームは、TPM を ISO/IEC 27001, ITIL/ITSM, プロジェクトマネジメント, エンタープライズアーキテクチャ, 調達, サステナビリティに対応させるブリッジング付録のアウトラインを作成する。
- ✓ 東京会議又は年末を目標にマクロレベルの第一稿を作成する。

8. ISO/IEC 19770-1:Ed.4 Update

1) 審議概要

WG21 内で投票にかかる最終ドキュメントをレビューしている。今回、附属書 A に載せる ITAM フレームワークについてレビューを行った。本文テキストに対するコメントレビューは行われなかった。

第 3 版では、15 の運用プロセスエリアがあり、それらを信頼できるデータ、ライフサイクル統合、最適化と 3 つの層に分類していたが、第 4 版では、50 のプロセスエリアを載せ、これを FinOps に似たフレームワークで記載している。但し、これらは参考(informative)であり、規定 (normative) ではない。あくまで ITAM を説明するときのフレームワークである。図 2 に示す ITAM のフレームワークが提案された。

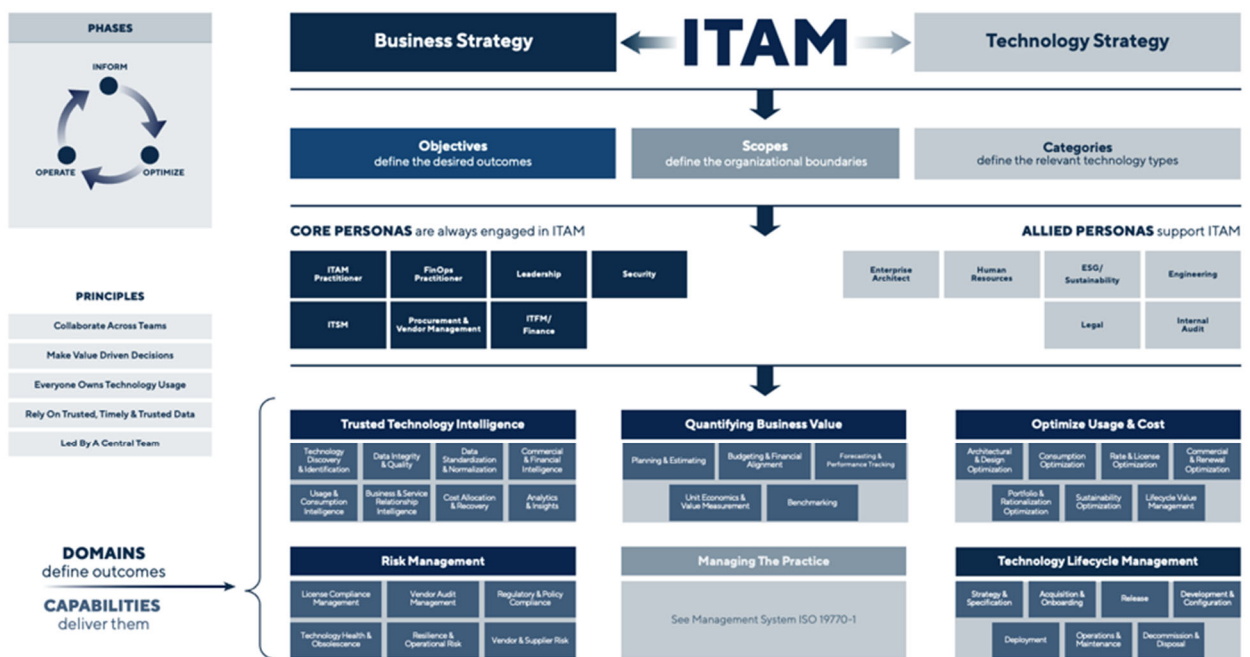


図 2 ITAM のフレームワーク (参考 informative)

第 4 版では、ITAM をビジネス戦略と技術戦略の橋渡しをするものにとらえ、そこから、目標 (Objectives) , 範囲 (Scope) , カテゴリ (Categories) をスコーピングしている。これらは ISO の MSS 箇条 1 , 4 に相当する。Objectives は、ステークホルダーの目的から導き出され、リスク分析や管理システムで言及されている要求事項も含まれている。次に、Scope であるが、組織的な範囲を言っている。Category は、対象とする技術を定義している。第 3 版の IT アセット (+a) のことである。これらがスコーピングの 3 つの主要な領域である。

次にステークホルダーについて、第3版ではステークホルダーと呼んでいたが、FinOps の用語に合わせて「ペルソナ」という言葉を使っている。ITAM に関与する Core Personas と ITAM をサポートする Allied Personas に分けてリストアップしている。

ドメイン (Domain) ・能力 (Capability) であるが、ドメインは目標のグループであり、能力はそれらの目標を達成する方法である。能力は、人、プロセス、技術の3つについて考慮すべきであり、単なるプロセスよりもはるかに広い範囲をカバーしている。

FinOps には4つのドメイン (Trusted Technology Intelligence, Usage and Cost Optimization, Business Value Quantification, Managing The Practice) があるが、ITAM では、FinOps で注目されていない Lifecycle Management と Risk Management を加えて6つにしている。ドメインごとにその能力について説明があったが、まだレビュー中なので、ここでは省略する。Managing The Practice は、FinOps では、Manage The FinOps Practice であるが、ITAM の場合、ISO 標準の4～10の箇条のPDCA そのものと言える。

2) 決定事項

- ✓ FinOps の概念を使用する場合は、明確な帰属と ISO 準拠の参照の方法を Editor に確認する。
- ✓ グラフィックから「Inform/Optimize/Operate」のバンディングを除去する。
- ✓ グラフィックから「Principles」を削除する。
- ✓ PDCA を全体の枠組みとして捉え直し、付録用に見やすく整理されたレイアウトにする。
- ✓ 図には重複した詳細を入れず、具体的な内容は規格のマネジメントシステムの各セクションに記載する。
- ✓ FinOps ドメインラベルを再利用するか、ITAM 固有の名前を使うかの決定は現時点で保留とする。
- ✓ 未処理のコメントに対応する。

9. ISO 42001 と ISO 19770 への影響

1) 審議概要

ISO 42001 による AI の MSS について、Rory (ITAM Intelligence) が、彼らの ITAM Accelerate でまとめている70 プロセス (HAM:12, SAM:32, クラウド:26) と ISO 42001 からの28 プロセスとの比較 (図3 ISO の19770-1 と42001 の比較) を行い、彼らの分類で18個の共通のプロセスと、10個のAI固有のプロセスがあるとの包括的な分析報告があった。

共通プロセスの内訳は、ガバナンス及びリスク:4, ライフサイクル:3, サプライチェーン:2, 人及び文化:3, データ及び報告:3, アシユアランス:3となっている。AI固有のプロセスは、AIにおけるライフサイクルとリスクに関するプロセスが4, 倫理と主権に関するプロセスが6であると報告された。

この報告では、従来のプロセスによる分類が報告されたが、ITAM, クラウド, AI などについて、別のプロセスとして説明している。アセットマネジメントシステム ISO 55001 では、“アセットを組織に価値を生み出すもの”と定義しているが、AI も ISO でいうところのアセットである。AI の構成要素は、ハードウェア, ソフトウェア, クラウド, ライセンスなどがあり、この管理は19770-1で規定している。AI には、これに固有の+αのプロセスがあり、新たなタイプとしてのアセットにするかどうかについて、19770-1の4版で検討中である。

このように新たなタイプのアセットが現れるごとに運用プロセスは複雑になっている。そこで、19770-1の第4版の6, 8 箇条では、これまで運用プロセスではなく、ドメインと技術, 人, プロセスからなる能力で記述している。この点については今回のレビューでは触れていないが、議論の中では、少なくとも19770-1のエディター達は、この流れが当然になるかのように話されていた。

この比較検討で、発表者から、規格に ISO 27000, 27701, 9001 は参照しているのに 19770-1 は記載されていないことが指摘された。MSS は、他にもたくさんあり、19770 の記載がないからと言って大騒ぎする必要はないが、IT アセットの管理が ISO 42001 の MSS の多くを占めているのであるから、SC42 との連携をもっと積極的に行う必要があるということになった。WG21 の上の SC7 レベルで SC42 の Liaison が派遣されていると思うので Ron が、調査することになった。いづれにしても次回の Interim Meeting では説明してもらえそうな感じである。



図3 ISO の 19770-1 と 42001 の比較

2) 決定事項

- ✓ ISO/IEC 42001 委員会とリエゾン関係を築き、所有者や委員会への連絡を行う。

10. ISO 19770-8 Certification

1) 審議概要

現状、19770-8 マッピングの正式な認定を受けるには、最低、WG 21 の審査が必要である。Rory は、19770-8 の認定プロセスに、SAM プロセスエコシステム、ITAM 成熟度評価、クラウドプロセスキットの 3 つを提出しているが、手順を見直してほしいとの提案があった。議論の結果、WG21 ではなく、ITAM Forum が認定を担当することで合意した。

2) 決定事項

- ✓ ITAM Forum のリーダーシップは、19770-8 に関する認定プロセス全体（誰が、何を、どこで、いつ、なぜ、どのように）を定義し公開する。
- ✓ ITAM フォーラムのリーダーシップは、6 月 8 日に開催される FinOps X の次回取締役会で方針を正式に決定する。
- ✓ ITAM Forum の Web チームは、ITAM Forum のウェブサイト、マッピングのための公開提出・ホスティングセクションを設置するか、もしくは itemstandards.org へのリンクを設ける。
- ✓ WG 21 及び ITAM Forum のリーダーシップは、認定審査の責任の委譲を確認し、その内容をメンバーに伝える。

11. 他の Other ISO 関連の検討すべき事項

1) ISO の持続可能性に関する調査について

ISO の規格がハードウェアに偏っており、ソフトウェアの環境への影響を考慮していないと批判されていた。これに対し、グループの合意として、現在のアプローチは十分であり、適切に対処していることが確認された。

DIN (ドイツ規格協会) / AHG10 (グリーンソフトウェアのアドホックグループ) から「資源効率の高いソフトウェアに関する ISO 公開協議会：最終報告書」が出ており、ここに WG21 関連する規格として 19770-1 (ITAM 要求事項), 19770-13 (ITAM 持続可能性), 19770-4 (資源利用測定) が挙げられている。19770-4 については、現在更新が行われていないことをコメントする。

2) ISO のオンライン開発標準について

すべての新規規格に対して、オンライン標準開発 (OSD) プラットフォームへの移行が義務付けられた。このプラットフォームは、バージョン管理、共同コメント機能、そして投票提出プロセスの効率化を実現している。さらに、ISO は 7 月までに複数の文書を統合した作業指針を発表する予定で、これは数十年ぶりの最大規模な改訂となる。

3) ITAM Forum の状況

ITAM Forum は正式に Linux Foundation に移行し、法的な手続きも完了している。旧組織からは、2 名がフルタイムで移動しており、エグゼクティブディレクターとして Rob Martin が候補となっているが正式にはまだ決まっていないようで 6 月上旬の委員会で決まる。

4) ITAM 業界のトレンドと WG21 計画への影響

ITAM に関連する技術のハイブ・サイクル (Hype Cycle) の説明があつた。Hype Cycle は、1995 年にガートナー (Gartner) 社が提唱した、新しい技術が市場に登場してから社会に定着するまでの軌跡を時系列で図式化したモデルである。

横軸が、黎明期 (Innovation Trigger: 画期的な発見が物事の幕開けとなる)、流行期 (Peak of Inflated Expectations: 過剰な熱意は成功と失敗の物語を生み出す)、幻滅期 (Trough of Disillusionment: 導入が期待に応えられず、関心が低下する)、啓発期 (Slope of Enlightenment: 真の利点と実用的な用途が広く理解されるようになる)、安定期 (Plateau of Productivity: 幅広い市場への適用性が、主流への普及が進むにつれて成果を上げる) で縦軸が期待を現わしている。

- ✓ FinOps は、期待のピークにあり、参加メンバーは納得していた。
- ✓ GreenOps は、消費電力や炭素排出量を削減し、環境負荷を最小限に抑えるための持続可能な枠組みのことで、クラウドのコスト最適化を目指す FinOps の環境版であり、持続可能な IT を実現するための実践手法として注目されている。
- ✓ Augmented FinOps は、FinOps に AI を活用したもので、実際にはまだ、あまり使われていないようだ。
- ✓ CMDB AI は、構成管理に AI を応用してサービスマッピングを行い、それをビジネス価値やコスト最適化の機会に結びつけることを可能にするものである。
- ✓ SAM ツールは、Plateau of Productivity (生産性の停滞) で注目度は低いですが、ガートナーの評価では、技術が定着してきており、ビジネス的には最高となっている。

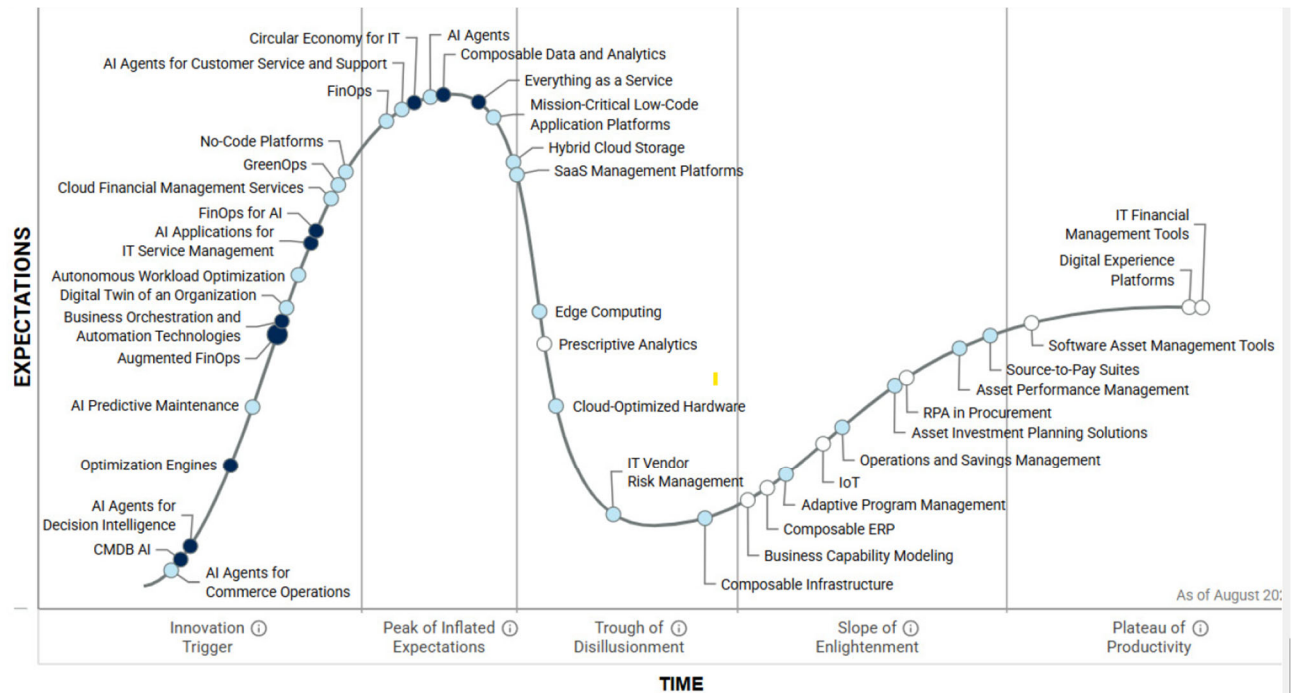


図 4 ITAM に関連するハイブ・サイクル (Hype Cycle)

12. Resolution

No	INITIAL COMMENT DATE	RESOLUTION	Owner	STATUS	UPDATED THIS REV	Comments
20PLN02		WG21 asks for ITAMOrg to provide the WG21 Convenor a mapping between the ITIL Standard to 19770-1:2017 and once received, for WG21 to publish to eCommittee and ITAMStandards.org.	Ron	C	2025/11/19	Update to 18INT06; The Convenor will follow up with Stéphane Joret Nov. 20, 2024 decision to remain as Continuing Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain as Continuing
21PLN07		It was resolved to ask ITAM Forum, a Category C Liaison organization, to act as the evangelism arm of WG21 and encourage others to participate and join in WG21. As part of this effort they would ensure ongoing dialogue with WG21 and provide updates during the Interim and Plenary meetings. WG21 further instructs its Convenor to establish a MOU to this effect between WG21 and ITAM Forum. WG21 asks Roger Cummings to provide an example for such MOU.	Ron	C	2025/11/19	Nov. 20, 2024 decision to remain as Continuing Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain as Continuing

No	INITIAL COMMENT DATE	RESOLUTION	Owner	STATUS	UPDATED THIS REV	Comments
23PLN-2-0000		JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to do whatever is necessary to issue, when available Revision of ISO/IEC 19770-1 Information technology — IT asset management — Part 1 IT Asset Management System (4th edition) directly for CD ballot. The revision will have no scope change. Project Editor : Ron Brill (USA)	RB	C	2025/11/19	Nov. 20, 2024 decision to remain as Continuing Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain as Continuing
23INT01		WG21 shall request the ITAM Forum to support in recruiting members to WG21	RB	C	2025/11/19	Nov. 20, 2024 decision to remain as Continuing Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain as Continuing
24PLN02	2024/5/29	WG21 shall schedule kickoff call with ITAM Forum to assist and collaborate with redefining the itamstandards.org website.	RS	C	2025/11/19	Call scheduled with Jennifer Carr and Martin Thompson on June 20 Nov. 20, 2024 initiative is still ongoing, decision to remain as Continuing Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain as Continuing
24PLN04	2024/5/29	19770-1 standards must include a definition of OTAM in addition to guidance and/or recommendations when and if these assets should be included in scope.	RB	C	2025/11/19	Nov. 20, 2024 decision to remain as Continuing Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain to Continuing
24INT02	2024/11/20	Ron to leverage ITAM Forum for possible purchase discounts of ISO standards.	RB	C	2025/11/19	Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain to Continuing
24INT03	2024/11/20	WG21 members to work with their National Bodies for ISO purchased standards statistics.	RB	C	2025/11/19	Nov. 19, 2025 decision to remain as Continuing May 8, 2026 decision to remain to Continuing
25PLN05	2025/6/11	WG21 members agreed on 2026 interim meeting to be hosted in Japan on 4th and 5th of November 2026.	Atsu shi S.	C	2025/11/19	Logistical information of potential dates and location still needs to be provided. May 8, 2026 decision to ammend ad we've solidified dates
25PLN06	2025/6/11	SIG via ITAM Forum to bring forth recommendation on where AI should sit within the asset classes in both the 19770-1 and 19770-10 standards.	Ryan	C	2025/11/19	May 8, 2026 decision to remain Continuing
25SC701	2025/6/11	JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to do whatever is necessary to move forward to the next ballot stage of ISO/IEC 19770-11 Information technology — IT asset management — Requirements for bodies providing audit & certification of ITAM systems	Ron B.	C	2025/11/19	May 8, 2026 decision to remain Continuing
25INT01	2025/11/18	Ron to establish a relationship with the committee over 42001	Ron B.	C		May 8, 2026 decision to change to Continuing

No	INITIAL COMMENT DATE	RESOLUTION	Owner	STATUS	UPDATED THIS REV	Comments
25INT02	2025/11/18	Study group to be created for Project Paradigm. Call for volunteers from various groups will be evangelized by the Convenor of WG21 and the Project Lead Jan and Co-Editor Ryan Stefani. The first phase objectives should be ready for Tokyo Interim meeting.	Jan & Ryan	C		Charter should be created for each study group. May 8, 2026 decision to change to Continuing
25INT08	2025/11/19	Convenor to add latest project statuses to his monthly presentations.	Ron	C		May 8, 2026 decision to change to Continuing
26PLN05	2026/5/8	Proposed disposition of comments and edits as proposed by ISO 19770-5 editor are approved and current draft is approved for publication.	Ron	A		
26PLN05	2026/5/8	Convenor to research to current attribution rules within ISO	Ron	A		
26PLN05	2026/5/8	Secretary to update the ITAM Framework Graphic to be included in Annex A of ISO 19770-1 to include PDCA and remove Inform, Optimize and Operate along with principles.	Ryan	A		
26PLN05	2026/5/8	Secretary to provide Training for OSD to all members of WG21	Ryan	A		

13. 次回会議

- Monthly Call : 6月の基本毎月の最終週水曜日
- Interim Meeting : 4-5, Nov 2026 Tokyo, Japan

以上